

# ～文化政策史研究会・第3回公開勉強会～

日時：2006年2月28日（火） 午後3時～6時

場所：東京大学本郷キャンパス 法文1号館216教室

内容：

## 1. 研究発表「近代美術の戦後：国立博物館の近代美術展から『近代美術館』の設立へ」

◎ 報告者 — 朴昭炫（パク・ソヒョン、東京大学大学院人文社会系研究科博士課程）

### ・発表要旨

1947年、旧「帝室博物館」に代わって「国立博物館」が開館した。「国民のための博物館」を掲げた国立博物館は、西洋の近代美術や明治以降の日本近代美術に関する展覧会を開催した。「近代美術館」設立を要求する声が多様なメディアを通して出される中、1951年、日本初の「近代美術館」と称される神奈川県立近代美術館が開館した。この年は「国立博物館」で〈マティス〉展と〈光琳派〉展が時を同じくして開かれた年でもあった。

本発表は、1951年のこの三つの出来事を中心に据え、戦後文化政策の一端を探ることを目的とする。特に、この年はサンフランシスコ講和条約が締結された年である。上の三つの美術史的出来事を単なる偶然の一致ではなく、1947年から51年までの間に展開されたアメリカの占領政策、またそれによって再編された日本の文化政策という枠組みを通して検証する。文化政策や制度の変化と、近代美術展や近代美術館設立に関わった人々によって生産される言説や実践が、どのように相応しながら戦後の近代美術の制度化を具体化していったのかを考えてみたい。

◎ 討論者 — 中川幾郎氏

（塚山大学大学院法政策研究科教授。主な著書に『分権時代の自治体文化政策—ハコモノづくりから総合政策評価に向けて』、『アーツ・マネジメント概論』（共著）など。）

## 2. 中川幾郎氏による特別講演「文化政策研究の諸課題—歴史的アプローチの可能性」

### 会場案内図

参加費：無料（当日、飲み物代としてカンパをお願いいたします。）

参加申込：下記連絡先までメールまたはFAXにてお願いいたします（「公開勉強会参加希望」とご記入の上、お名前・所属を明記ください）。

- ・メールアドレス  
…bunkaseisakushi@yahoo.co.jp
- ・FAX …03-5841-1251

申込期限：2月22日  
（会場の都合により先着20名とさせていただきます）

お問合せ：新藤（bunkaseisakushi@yahoo.co.jp）

主催：文化政策史研究会



地下鉄丸ノ内線・都営大江戸線 本郷三丁目駅  
地下鉄南北線・東大前駅よりともに徒歩10分

### —「文化政策史研究会」について—

日本の文化政策に関しては、近年文化史、近現代史、教育史など様々な領域で個別に研究が進められていますが、明治期から現在までを視野に入れた通史的・包括的な文化政策研究は、これまで体系だった形で行われてきませんでした。

そのような、いわば「文化政策史」の視点に立った研究を模索してゆくために、一昨年、関心を持つ若手研究者・大学院生を中心としたメンバーが集まりました。一年あまりにわたる勉強会を通じ、私たちの課題が既存の学問領域・方法論との関連をもつ分野であることはもちろん、近年の文化政策の進展からみても、「歴史」研究にとどまらない極めて現代的な課題である、との認識を深めてきました。

そこで、これまで私たちが行ってきた個人研究及び集団討論のプロセスを公開・共有することで、文化政策を論じる枠組みについてより豊かに議論を構築していきたいと考え、公開勉強会を開くことといたしました。内容は、研究会メンバーの報告と、それを受けて関連分野の第一線の研究者を討論者に迎えての対話で構成します。参加者との質疑の時間もできるだけとりたいと考えております。

文化政策史研究会メンバー同

▽第1回公開勉強会…「戦争期日本の文化外交と宝塚少女歌劇団の海外公演」2005年7月9日、東京大学

・報告者：朴祥美（プリンストン大学大学院博士課程）・討論者：戸ノ下達也氏（洋楽文化史研究会）

▽第2回公開勉強会…「アーカイブの構想—伊東忠太のフィールドノートにみる戦前文化財保護制度」2005年9月10日、東京大学

・報告者：盧詩梅（コーネル大学大学院博士課程）・討論者：アラン・クリステイ氏（カリフォルニア大学）